



平成二三年度(第八三回)秋田県殉職消防職・団員慰霊祭が、八月二四日(水)午前一一時から秋田市千秋公園本丸の「八幡秋田神社」において、秋田県消防協会が祭主となり執り行われた。例年は同所「殉職消防組員招魂碑」にて行われていたが、今年

新たに一柱を合祀 災害の防止と消防活動の安全を誓う

平成二三年度殉職消防職・団員慰霊祭

隣接する「八幡秋田神社社殿」で行われた。

祭場には、今年一月一五日に発生した住宅火災の消火活動中に倒れた井川町消防団分団長故浅野龍夫様が新たに合祀され、合わせて四五柱が祀られた。また、慰霊祭には、ご遺族の方一四名のほかご来賓、消防協会役員など五〇名が参列した。

慰霊祭は、招魂などの神事後、中泉松之助秋田県消防協会長が「ここに祀られている御霊は郷土を災害から守るため、我が身の危険をも顧みず、果敢にその職責を果たし、不幸にしてその職務に殉じられた方々であり、今日の秋田の繁栄と生活の安定の礎となっている。私たち消防人は諸霊のご加護のもと、一致団結して災害を防止し、地域住民の安全・安心



題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中泉松之助
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubairainsatsu.co.jp>

平成二十三年度全国統一防火標語
消したはず
決めつけないで
もう一度

のため更なる努力を誓う」と祭主祭文を奉上了。

堀井啓一秋田県副知事は来賓を代表して「諸霊が身をもって示された崇高な精神と果敢な行動は、本県消防人の誇りであり、今も私たちの心に生き続けている。私たちは、その御遺志に

応えるためにも、今後とも消防力の充実や、この度の大地震の教訓を踏まえた防災体制の強化に努め、県民の安全と平穏な社会の実現に向け、全力で取り組むことを誓う」と慰霊の言葉を述べられた。
続いて玉串奉奠が行われ、中泉会長、ご遺族を代表して大館市の松山憲子様、ご来賓の方々が御霊の冥福を祈った。最後に送魂の神事が行われ、慰霊祭を終えた。



第六五期初任教育入校生 殉職消防組員招魂碑を清掃

秋田県消防学校

秋田市千秋公園本丸に建立されている「殉職消防組員招魂碑」の清掃は、毎年、秋田県消防学校初任教育課程の情操教育の一環として行われている。

今年も、八月二四日(水)開催の「平成二三年度殉職消防職・団員慰霊祭」に先立ち、八月二二日(月)に九二名の入校生によって行われた。

清掃は、本間稔学校長の訓辞に続き、参加者全員が「招魂碑」に向かい黙祷を献じた後、始められた。

入校生は、碑内の玉石を移動させて枯れ葉やゴミを除去したり、碑周囲の雑草などを取り除いたほか、碑に付着したコケなどの汚れを水をかけてブラシで洗い流した。

「招魂碑」は見違えるようになり、ました。第六五期入校生九二名の皆さん、ありがとうございました。



井川町消防団 故浅野分団長慰霊式

井川町農村環境改善センター

住宅火災の消火中に殉職された井川町消防団分団長故浅野龍夫様の慰霊式が、七月二十五日(月)午後二時三〇分から井川町農村環境改善センターにおいて、秋田県消防協会主催で挙行され、ご遺族を始め井川町長齋藤正寧様、秋田県総務部総合防災課長佐藤昇様、日本消防協会理事長秋本敏文様、井川町消防団や秋田県消防協会の関係者など五〇名が参列した。

故浅野分団長は、一月一五日(土)午後七時二七分頃、井川町北川尻字海老沢村地内で発生した住宅火災の消火活動のため、同三二分頃詰所より他二名と出動し、同三七分頃筒先を担当し、消火活動を開始したが、同五五分頃倒れているのを発見された。直ちに救急搬送されたが、同日午後九時二〇分に医師により死亡が確認された。慰霊式は、殉職された故浅野



分団長に黙祷を献じた後、中泉松之助秋田県消防協会長が「故浅野様が最後まで勇猛果敢に職責を全うされた姿は、消防人のみならず地域の方々が等しく賛辞するものであります。私たち消防人一同、大変残念であります。突然家族を失ったご遺族の胸中をお察しするとき、お慰めの言葉もありません。私たちはこの慰霊式を機に、地域住民の安心安全の確保のため、一層精進することを誓う」と式辞を述べた。

日本消防協会秋本理事長は、ご遺族に「顕彰状」「弔慰金及び弔慰救済金」の目録を手交された後、「一家の大黒柱を突然失われたご遺族の方々、頼もしい仲間を失った団員の深い悲しみを思えば、お慰めの言葉もありません。日本消防協会としても、微力ではありますが、できる限りのお力添えをさせていただきます」と挨拶をされた。



慰霊式は、この後、献花、ご遺族が謝辞を述べられて終えた。

第二回理事会 秋田県消防協会

秋田県消防協会第二回理事会は八月二四日(水)、平成二三年度殉職消防職・団員慰霊祭終了後、秋田市中通の「イヤタカ」で開催された。主な協議事項、報告事項についてお知らせする。

協議事項

①日本消防協会表彰の上申

まとい、表彰旗、竿頭綬などの表彰については、各支部内申のとおりに上申することとしたが、婦人消防隊に関する内申はなかった。

②秋田県消防協会表彰

勤続章と今年度から実施する功労章は、各支部から上申のとおりに授与することが承認された。

③全県消防団長研修等

全県消防団長研修と女性消防団ネットワーク会議は、次の日程で開催することとした。

■全県消防団長研修

平成二三年十一月二五日(金)

■女性消防団ネットワーク会議

平成二四年二月九日(木)

④第一八回全国女性消防団員活性化秋田大会

■プログラム作成の基本方針
秋田大会プログラムの作成等に当たっての基本的な考え方は、「秋田」にこだわった「秋田らしい大会」にするようアトラクションや情報交流会等を企画することを申し合わせた。

■香川大会

香川大会プログラムに掲載される「次回大会の紹介」のデザインを考えた。

報告事項

①消防団員研修

次の研修が秋田県消防学校で開講されますので、団員の多くが受講されるようお知らせします。

研修名	開催日
女性消防団員研修 (新規)	平成23年10月29日(土)～ 30日(日)
消防団員指導員研修	平成23年11月26日(土)～ 27日(日)
消防団幹部研修	平成24年1月21日(土)～ 22日(日)
消防団基礎研修	平成24年2月18日(土)～ 19日(日)

第七回 消 防 団 員 意見発表会(二)



遠 間 功

・井川町消防団
団員
・勤続二年
・会社員

平成二二年一月井川町消防団第二分団に入団。
地元で貢献する事を常日頃心に思い、地域防災活動に於いては、団員や友人と深く考え、熱く語り積極的に行動する第二分団きつての若手のホープ的存在である。
昨年の井川町消防操法大会では、選手宣誓を務め、競技では惜しくも入賞出来ず、今年の大会でのリベンジに燃え練習に練習を重ね、日々躍進している。

「新兵の一年」

「放水はじめ！」これが私の久しぶりに出した大声であり、私の消防人生の始まりでした。

私は、二年前に井川町に帰郷し、下は一三歳から上は一〇四歳までの、まれに見る大家族の一員となり、今まで地域のことを考え、行動していた祖父のように、私にも何か出来る事は無いかという気持ちと、地元の

悪友の強すぎる勧誘により、入団致しました。当時の私は消防団とはどんなものかまったく理解しないまま、ただやる気と酒を飲めるだけの団員でした。

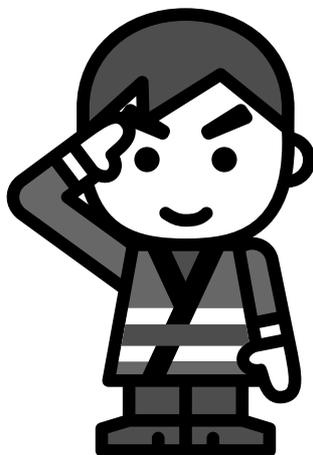
そんな私が始めて消防らしい活動をしたのが、出初め式でした。「かしらく中」なんのことが解らず、まわりにあわせ、頭を動かし、なにくわぬ顔をしていました。それからの活動も、変化も無く、月日だけが過ぎて行き、何だか自分が情けなくなっていた時でした。「だれか、小型ポンプ操法大会出場して人いるが〜」

私は迷わず手を上げました。「早く自分も分団の一員になりたい」という思いと、情けない自分と決別するためのものでした。幸い先輩がたの助け船もあり、何とか出場させてもらうことができました。

しかし、始まってみると、とても仕事が終わってから行う行動には思えませんでした。毎日グラウンドの土と一体化し、汗まみれ、指の先まで注意され、走り出す際は、コブシを腰に当ててから走り出す、新兵の私には、意味さえもわからず、ただひたすら駆け抜けるしかありませんでした。また、訓練が終わると反省会という名を借りた晩酌。これも中々強烈でした。消防団名物なのか、スルメを入れた骨酒、味を覚えさせて

頂きました。芳醇な香りと、絡みつく喉ごし、一杯が、いっぱいになり、スルメを入れたはずなのに、茹でたタコみたいになる顔、「記憶にございません。」日課になりそうな言葉でした。

しかし、そんな苦しい訓練にも、災害時には、被害を最小限に食い止める、自分自身も守るものだと教えられると、私は、改めて消防団員なんだと自覚致しました。大会が近づくと、先輩団員の熱の入った指導につれ、先輩の熱が入った指導、痛む体、過酷なものでしたが、選手達の一体感は、日々増して行き、大会に挑みました。本番直前、初めての大会と自身の自信の無さからか、緊張で体が硬くなっておりました。そんな中、ふと目を上げると、指揮者の先輩と目が合いました。にっこり笑うと先輩は声を出さず、「大丈夫」と頷きました。その安心感にかけられた言葉や、積みあげた訓練を思い出し、私の中の緊張が一瞬で自信と闘志に変わり、本番を向える事が出来ました。残念ながら、大会では入賞する事は出来ませんでした。大会では入賞をとおして自分達の役割、責任感、そして、仲間と共に力を合わせる事の大切さを学びました。また、誰かの為に行う行動を損得勘定で考えがちなか、人を思いやり、助け合う事が一番大切だと改めて気づかされま



した。三月の震災時、町内の高齢者宅に安否と家屋の確認活動を行った際、「おくい、いだが〜」「あいくわざわざ見回りにけで、ありがとう」大変うれしく、やる気になる言葉です。この言葉と消防団員の地域を愛す気持ちは、いつでも輪になっている気がします。「全国的に消防団員の減少、団員の確保が最大の課題」と言う言葉を耳にしますが、入団を考えている方、興味がある方、いらつしゃれば、一言だけ、「大丈夫！」
私たちは仲間と苦勞し、仲間と悩み、仲間と語らい、仲間と共に笑っています。私は消防団員になれたことを誇りに思います。入団二年目の若輩者の私ですが、この誇りを胸に掲げ、これからも、地域を思いやり、「大丈夫」と安心感を届け、「放水はじめ！」声を響かせ、活動させて頂きたいと思っております。



鳥海 一房

・秋田市消防団
副団長
・勤続三十二年
・自営業

秋田市土崎港地区で食堂を営んでおり、地元の人達とのふれ合いを大切にしています。
また、若くして分団長に昇格、団員を統率し秋田市消防操法大会では常に上位に進出しています。副団長になった今も前線で活躍しています。

「あの決意から今」

始めに先の東日本大震災でお亡くなりになりました方、そして殉職、または行方不明になっている我々の仲間、二百四十九人に深く哀悼の意を捧げます。

さて、私が三十三年前に消防団に入ったいきさつをお話しさせていただきます。

昭和五十一年、土崎港の工場で大火災がありました。私の家は隣で食堂を営んでおり、工場はお得意さんでした。

午後八時を回った頃、子供を風呂に入れていた時、窓の外を赤色灯を回し、サイレンを吹鳴した消防車が通り過ぎて行きました。

けたたましく鳴り響くサイレンから「すぐ近くだ。」と、思った私は子供を家内に預け、降り続く雪と突風の中、慌てていたのか、サンダル履きで会社構内に走っていきましました。

父は自宅屋根に上ってバケツを用意し、祖母は孫をおんぶし、いつでも逃げる体制をとっていたようです。

この工場はロープを製造している会社でしたので機械や床には油が染みこんでおり、風呂場から出火した火は廊下伝いに拡大し工場に到達、フラッシュオーバーだったのでしょうか、粉々になった窓ガラスが飛び出してきました。危険だと思い退却したのですが、私の家のすぐ裏に警戒線が張られた為に二度と中に入る事ができませんでした。警戒線の中では、地元の消防団員達が懸命の消火活動を行っていました。この活動中、ホースが凍ってしまい思うように曲がらず、放水できない場面がありました。それを見ていた私は近づいて手伝いたかったのですが、消防団員でない為に警戒線中には立ち入ることが許されなかつたのです。この時の歯がゆい思いが「自分も消防団に入る」と強く決意させたのです。

そして、入団を希望し実際に入団できたのは夏に行われる消防操法大会の選手が一人足りないためでした。

理由はどうであれ、入団できたことはとても嬉しかったのを覚えています。

そして消防団の一員としてスタートを切ったわけですが、入団当初は、家の近くを消防車が通ると分団長に電話を掛けて、出場の要否について聞いていました。各分団には出場管轄が決まっています。何処の災害でも全て出場するものでないことを後から知りました。

あのときの決意から、早いもので来年度定年退職を迎えることとなります。今は消防車のサイレンが鳴らないことが平和であり、とてもすばらしいことだと感じています。

消防団員は火災だけでなく、多種多様な災害から自分たちの地域を守るために出場しなければなりません。サラリーマンが多くなつた今の時代、消防団に入団、または消防団活動がなかなか難しくなつてきていると思います。

しかし、若い人達には、自分の家族や周りの人、そして地域全体を自分たちで守るといふ消防団の心を理解していただき、多くの人が入団してくれることをお願いして終わりたいと思います。

ありがとうございました。



菊地 広幸

・由利本荘市消防団 分団長
・勤続一〇年
・会社員

本年四月、由利支団の分団長を拝命。
所属分団では、二〇年余りを共にしたポンプ車が、今年、小型ポンプへ更新される。
入団以来、会社員として勤務しながら訓練を重ね、引き継いできたポンプ車操法は、最後の年となるため、大会へ向け分団長として、特別な想いを胸に日々訓練を重ねている。

「最後のポンプ車操法」

私は消防団に入団して一一年目になります。入団のきっかけは、とうふ屋の兄さんに、「うちの町内は四年で交代できるから何とか頼む」と言われ「四年位ならまあいいか」と軽い気持ちで入団を決めました。

一年目は何をすればいいのかもわからず、ただ足でまといになるばかり、ましてや操法練習中は終われば反省会と称して酒飲みです。当時の私はビールの大ピン一本飲むのがやっとで参加するのが練習よりもきつかったです。

第六五期初任教育

四ヶ月が経過して

秋田県消防学校

第六五期初任教育も残すところ一ヶ月となった。入校生は、九月一三日の学校長査閲、一六日の修了式を控え、連日猛暑の中、応用訓練等に励んでいる。

今日は、校外での訓練の様子を、入校生の感想文で紹介する。

今日歩大会
七月九日(土) 寒風山〜秋田大学



佐藤 亮
大館市消防本部

消防学校での生活でこれまで様々な行事があったが、一番印象に残っているのは先日行われた今日歩大会である。四〇キロメートルという長い距離、そしてチーム四人一緒にゴールしなければならぬという事で不安で一杯であった。しかし、実際やってみると大変ではあったが、互いに励まし合いながら無事に走り切り、予想よりも遥か上位でゴールできた。ゴール後の達成感は相当なものであ

たと同時に、仲間の結束力も強まり、とてもいい経験になった。この経験を今後の訓練、人生に活かしていきたいと思う。



篠田 陽介
由利本荘市消防本部

これまでの人生の中で、一度に走る距離としては最長だった四〇キロメートルという道のり。単独で走るのではなく、四人一チームで走ってゴールするというルール。スタートまではたくさんの期待と不安が入り交じっていました。

怒ったり、笑ったり、疲れて言葉も出なかつたり、楽しい事や面白い事より大変だった事の方が多かった事は確かですが、お互いに声を掛け合い完走したことは、チームにとっても個人にとっても良い経験になりました。

消防学校の生活も大変なことは



多いですが、同期と一緒に残り少なくなってきた期間を乗り越えていきたいと思えます。

山岳訓練
七月二二日(木) 秋田駒ヶ岳



仙道 直人
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部

私自身あまり登山をした経験がなく、山の上から見た田沢湖がとても綺麗だった。登るのが大変な道もあったが同じグループの人達と楽しく登る事ができた。また、いつもの部屋のメンバーとは違い今まであまり話した事が無かった人達と一緒に泊まる事でもいい刺激になった。残りの二ヶ月一つ一つを無駄にしないようにたくさん学び吸収したい。



航空隊合同訓練
七月二二日(金) 消防防災航空隊基地



今野 広貴
にかほ市消防本部

航空隊員の訓練に取り組み姿が印象に残っています。あの迅速な動き、常に緊張感を持って訓練に臨んでいる印象を受けました。この日々の訓練があるからこそどんな現場でも冷静に対応できるのだと思います。私も先輩達の取り組む姿勢を見習い、今後の訓練に臨んでいきたいと思



吉田 研吾
男鹿地区消防一部事務組合消防本部

航空隊合同訓練では、隊員一人一人の活気ある行動に圧倒されました。自分もいつかはしっかりと技術をつけて、航空隊員になりたいと思います。普段はできない貴重な体験ができました。これからの消防人生を頑張っていこうという気持ちに更なる強まりました。



住宅用火災警報器の設置が義務化されました

=住宅用火災警報器は、早期に火災の発生を感知し、あなたに知らせます=

平成16年の消防法改正により、平成23年6月からは、すべての住宅を対象に住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の設置が義務化されました。

本県の住警器の推定普及率は平成23年6月時点で62.3%（消防庁）と、全国平均の71.1%を大幅に下回っています。

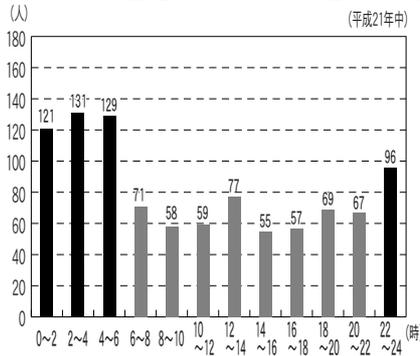
住警器を設置していない方は、是非、早期に住警器を設置しましょう。

住宅火災の現況

住宅火災の現況や住警器の設置による効果について、消防白書や消防庁の資料により紹介します。

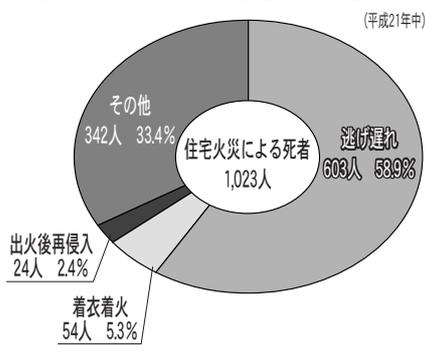
■時間帯別の死者の発生状況 就寝時間帯が多い

時間帯別住宅火災の死者発生状況



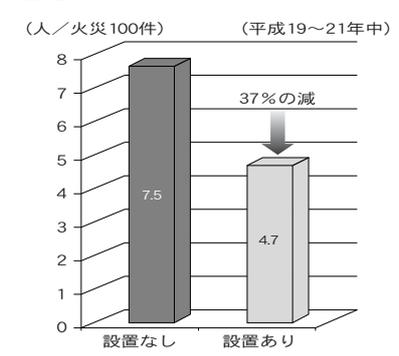
■住宅火災で死に至った原因 「逃げ遅れ」が59%

住宅火災の死に至った経過別死者発生状況



■住警器設置の効果 死者数は37%の減

住宅火災100件当たりの死者数



住警器の奏功事例

住警器が作動し、大事に至らなかった例を、秋田市消防本部の資料により紹介します。

<p>ぼや火災 (平成22年6月)</p> <p>一般住宅 (秋田市土崎港)</p> <p>たばこの吸い殻を寝室のゴミ箱に捨てたため、ゴミ箱から発煙し煙感知器が発報、近くで球技の練習をしていた生徒がその警報音に気づき、監督が119番通報するとともに火事ぶれを行った。家人が火事ぶれを聞き、寝室のゴミ箱から火がでているのを発見、浴室の水を掛けて消火した。</p>
<p>部分焼火災 (平成22年10月)</p> <p>一般住宅 (秋田市河辺和田)</p> <p>1階寝室で就寝していた家人が、設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、居間へ行ったところストーブのコンセント付近から煙がでているのを発見した。ただちに火事ぶれを行い、家族がバケツで初期消火をしたが消火できなかったため、自宅の電話で119番通報したものの。</p>

<p>ぼや火災 (平成22年6月)</p> <p>共同住宅 (秋田市保戸野)</p> <p>ガステーブルの魚焼きグリルに火を付けて居間で眠ってしまったため、魚焼きグリルから出火、住宅用火災・ガス漏れ複合型警報器が発報した。隣人がその音声警報に気づき、火事ぶれを行い、火事ぶれを聞いた大家が119番通報するとともに魚焼きグリルから火がでているのを発見、水道水を掛けて消火した。</p>
<p>部分焼火災 (平成23年4月)</p> <p>共同住宅 (秋田市榎山南中町)</p> <p>この共同住宅1階に住む大家が、住宅用火災警報器の警報音に気づき廊下にてみると、5号室の玄関上部から煙がでており、玄関下部から水が流れていたので、合鍵で5号室に入ったところ火災を発見し、台所の水道水を桶に汲み消火した。また、新聞配達員が配達中に同事案に気づき119番通報したものの。大家が火災を発見した時、火元者は在宅中であり、高齢で気が動転して台所の前に立ちすくんでいたが、大家が初期消火に成功した後、廊下へ避難していた。</p>

支部情報アラカルト

防災をテーマに

佐竹知事と意見交換

大館北秋田支部

「知事と語る・村なか街かどミーティング」が、八月二五日、大館市の北部老人福祉総合エリアで開かれました。この催しは、佐竹知事が、県政課題について広く県民の意見を聞くもので、大館北秋田管内から、災害ボランティアや消防団、自主防災組

織、社会福祉協議会の代表ら七人が参加し、「防災対策」をテーマに提言しました。北秋田市阿仁前田駅前自治会長・山田金成さんは、一九九一年水害を振り返り「自



意見交換会の様子

助努力はもちろんだが、行政からのきめ細かい情報が必要。防災無線にあわせて避難サイレンを鳴らしてはどうか。行政は机上の計画でなく、現場で住民の声を拾うべきだ」と要請しました。

福島原子力発電所事故を受け、南相馬市から大館市に避難している佐藤敏行さんは、ガソリン確保に苦労しながら大館にたどり着くまでの経緯を伝えながら「状況が分からず、とにかく情報が欲しかった」と訴えました。

震災復興支援のボランティアパーティーを企画した葛谷達徳さんは「何が必要か分からず、当初は被災地からも自己完結できる人しか受け付けないと言われた。周辺自治体が受け皿になり、情報だけ集めて派遣するシステムが有ればいい」と提案しました。

これに対し知事は、「ボランティアの区分や登録制度などの在り方を検討したい」と前向きな考えを示し、自主防災組織については「災害時に使う拡声器や誘導旗など、動きやすい体制づくりを考えたい」と述べました。

大館市消防団から参加した渡部留



大館市消防団 渡部留美子さん

火災の発生状況

秋田県総合防災課調べ

美子さんは、「普段交流のない様な立場のかたから、たくさんのお話を聞くことができました。これを今後の活動に活かしたい」と、感想を寄せてくれました。(情報提供 大館北秋田支部)

	平成23年 (速報値)		平成22年 (確定値)			同期比較	
	8月	累計	8月	累計	年計	8月	累計
建物	20	149	19	167	235	1	-18
林野	4	17	1	13	13	3	4
車輜	3	26	4	20	27	-1	6
その他	16	44	5	45	57	11	-1
合計	43	236	29	245	332	14	-9
死者数	0	26	1	14	20	-1	12
負傷者数	5	41	5	47	58	0	-6

森田ポンプ ラビットポンプ
 桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
 各種消火器 消防機器一式

株式会社 協立
 株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
 TEL (0185) (52) 6361
 (52) 6494

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防 設 備
 ポンプ自動車 火災報知器
 小型ポンプ スプリンクラー
 ホース 消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)
 猿田興業ビル7F FAX 018 (824) 3651